

第8章 調査・研究

第1節 調査研究

1 梯川流域住民健康調査

1 はじめに

小松市内を流れる梯川は、その源流を大日山系に発し大杉谷川、郷谷川を合わせている。この郷谷川の上流には、かつていくつかの鉱山がありその鉱滓が流出していた。

梯川流域ではこの水系からの灌漑用水を水田に引用していたため、土壌汚染や産米汚染が懸念され昭和 49、50 年度に梯川流域農用地汚染対策地域全域 23 地区の 50 歳以上の住民を対象として健康影響調査を実施した。その結果、腎尿細管機能異常のため継続的な健康管理を必要とするもの(継続管理者)86 名

が発見された。昭和 51 年度には環境庁方式による実態調査の結果、あらたに 31 名の要経過観察者が発見された。

その後、農用地土壌汚染防止法による地域見直しに伴う再調査の結果、継続的な健康管理を必要とする者 207 人(継続管理者 53 人、新管理者 154 人)と再検査を必要とするもの 106 人が発見された。そのうち、健康管理を必要とするものについて年 1 回の管理検診と健康観察及び保健指導を継続実施している。

2 梯川流域住民健康調査

(1) 健康調査の状況

ア 対象者

平成 30 年度調査結果に基づき、梯川流域住民健康調査班が判定し、要専門管理、要生活指導、要経過観察、判定保留とされた者

イ 検診内容

(ア) 検査資料

本来は、24 時間尿、2 時間尿、血液(静脈及び動脈)であるが、入所中の対象者の状態

を考慮して、随時尿と静脈血の収集のみ行った。

(イ) 調査項目

尿検査、血液検査

ウ 受診状況(表 1、表 3)

検診対象者 4 名中、男性 1 名は介護施設に入所中であり、施設協力の下、訪問を予定していた。訪問日前に体調を崩され、訪問を実施することはできなかった。

(2) 保健指導等の状況（表4）

対象者4名中、訪問を望まない者を除いた1名に対して、医師及び保健師が、入所施設の訪問により、一般診察、生活状況、医療機関受診状況を聴取予定だったが、対象者が体調を崩し、急遽中止となった。

(3) 死亡状況

本年度内に男性1名が死亡した。女性1名について、前年度に死亡したことを本年度中に確認した。

3 終わりに

現在の要継続管理者は少ないながらも、今後も引き続き対象者に訪問を実施し、健康観察と保健指導を行っていく予定である。

表1 健康管理対象者の判定区分の年次別経過

年度	区分	対象数		判定区分				死亡 (人)
		年度当初 (人)	検診時点 (人)	要専門管理 (人)	要生活指導 (人)	要経過観察 (人)	判定保留 (人)	
50			86		39	47		5
51	県単	81	76		45	31		8
	環境庁 方式		31 [13]	7 [1]	16 [6]	6 [4]	2 [2]	
52		86	79	3	53	22	1	7
53		78	77	4	50	23		1
54		77	75	9	33	32	1	4
55		73	70	10	22	26	11	3
56		69	67	10	22	19	16	3
57		66	65	10	15	6	34	1
58	継続	65	53	6	24	15	8	12
	再調査		154	3	36	115		
59	継続	207	188	9	38	79	42	20
	再調査	106	82		4	27	42	9
60		241	231	8	64	126	29	4
61		221	211	7	53	114	27	10
62		192	183	5	60	87	31	1
63		170	160	5	45	73	31	6
元		146	140 (90)	5 (5)	50 (39)	62 (45)	22	1
2		134	124 (77)	4 (3)	39 (30)	60 (44)	21	
3		117	111 (72)	4 (4)	39 (32)	43 (33)	22	3
4		100	97 (62)	4 (3)	35 (28)	42 (31)	15	1 (転出者)
5		93	89 (54)	3 (2)	27 (22)	38 (30)	21	
6		85	84 (45)	4 (3)	24 (19)	30 (21)	24	2 (2)
7		78	75 (35)	2 (2)	23 (16)	22 (17)	28	
8		67	62 (26)		22 (14)	19 (12)	21	
9		59	56 (27)		17 (13)	16 (14)	23	
10		53	51 (19)		14 (9)	14 (7)	23 (3)	
11		50	46 (17)		9 (9)	14 (8)	23	
12		45	43 (18)	1 (1)	9 (9)	8 (8)	25	
13		39	36 (15)	1 (1)	8 (8)	6 (6)	21	
14		36	35 (13)	1 (1)	10 (7)	5 (5)	19	
15		33	31 (9)	2 (1)	5 (3)	6 (5)	18	
16		30	26 (13)	2 (1)	13 (9)	3 (3)	8	
17		23	20 (10)	2 (1)	7 (6)	3 (3)	8	
18		19	17 (11)	2 (1)	6 (5)	4 (4)	4	1 (1)
19		16	16 (8)	2 (1)	6 (4)	4 (3)	4	-
20		16	15 (7)	2 (0)	5 (5)	4 (2)	4	-
21		11	11 (6)	0 (0)	3 (3)	4 (3)	4	-
22		10	10 (4)	0 (0)	4 (2)	2 (2)	4	-
23		10	9 (3)	0 (0)	5 (3)	1 (0)	3	-
24		9	9 (3)	0 (0)	5 (3)	1 (0)	2	-
25		8	7 (2)	1 (0)	1 (2)	1 (0)	4	-
26		7	7 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	4	-
27		7	7 (1)	1 (0)	1 (1)	1 (0)	4	-
28		7	6 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	4	-
29		6	5 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	4	-
30		5	4 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3	-
31(令和元)		4	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2	-

注1 環境庁方式による調査結果は、イタイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総括委員会による最終判定結果で、[]内は新たに発見された数の再掲

注2 判定保留は、過去3年以上にわたって未受診者の者。

注3 再調査未受診者とは、57、58年度において二次、三次検診を受けなかった者

注4 ()は、健康調査受診者(尿検査のみの者を含む)の判定区分の再掲

注5 本年の死亡[]は、以前死亡していたケースが今年になって確認されたもの

表3 健康調査・検査別結果

令和元年度

検査 年齢	検診対 象者数	24時間尿検査			2時間尿検査		
		実施者数	β 2-MG 1mg/l以上	LZM(注) 1mg/l以上	カドミウム 30 μ g/l以上	実施者数	%TRP 80%未満
70~79	0	0	-	-	-	0	-
80~89	0	0	-	-	-	0	-
90~	4	0	-	-	-	0	-
計	4	0	-	-	-	0	-

(注) LZMは尿中リゾチームの略称、本年は検体不足のため実施せず。

表4 健康管理対象者への訪問状況

令和元年度

対象者	訪問回数	訪問延件数	指 導 内 容
4	0	-	—